カトリック教報

カトリック長崎大司教区
広報委員会
〒852－8113
長崎市上野町10－34
カトリックセンター内
TEL 095－843－3869
FAX 095－843－3417
振替口座 01880－5－2699
発行人
山田良秋
印刷所
株式会社 インテックス

世界平和のために祈る

教皇フランシスコは、イスラエルとパレスチナ間の情勢を受け、10月17日（火）、10月27日（金）を祈りと断食の日とし、世界の平和を求める人々と一致するよう招かれました。教皇の意向に心を合わせ、引き続き祈りましょう。

聖トマス西と十五殉教者祭
〝神は弱さを通してでも導く〟

9月24日（日）中町教会で聖トマス西と十五殉教者祭が行われた。2020年以降、新型コロナウイルスによる影響で長崎大司教区主催としての実施が見送られていたが、今年は教区主催、長崎南地区評議会担当で開催された。

14時から教会敷地の同殉教者記念庭園で中村倫明大司教が記念碑に献花・献香をし、皆で祈りをささげ、その後聖堂内に移動して「聖トマス西と十五殉教者の玄義によるロザリオの祈り」を唱えた。15時からの殉教記念ミサは、中村大司教が主司式を、22人の司祭団が共同司式を務め、集まった約220人の信徒らとともに祈りをささげた。

ミサの説教を担当したイエズス会のデ・ルカ・レンゾ師（二十六聖人修道院）は、この日朗読された聖書の箇所（マカバイ記二7・1－2、9－14、ペトロの手紙一4・12－19）が示す意味を分かりやすく説きながら、福音書（ヨハネ12・24－26）の言葉「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」を引き、どの時代にも迫害があり殉教する人たちがいたこと、一度は背教した人も「神は決して見放さない」という信仰があったからこそ戻ったであろうこと、その神への信仰が、場合によって小さなことの中で現代の私たちに問われていることを語った。

「私たちはこの16人を偉大な人だと見ています。その通りですが、彼らこそ自分の弱さを捨て、神様を信頼し委ねました。神様は私たちの弱さを通してでも導いてくださる。それは彼らの時代だけでなく、現代もそうです。神父が1人もいなくなった日本の中でも神は導いてくださった。私たちは若い人があふれ、召命が増える教会を望み祈らなければなりませんが、同時に、今の弱さを通しても神様が働いてくださっていること、福音宣教へと、人々を救えと呼んでくださる神様がいるという信仰を新たにして、彼らのとりなしを願いたいと思います」と結んだ。

ミサの終わりに中村大司教があいさつをし、多くの方の参加と奉仕に感謝の言葉を述べるとともに、召命のため、宣教のためにあらためて祈りを呼びかけた。

城山教会所属の男子高校生は「用事のため前晩ミサに行けず、家族からこのミサのことを教えてもらい、時間がちょうど合って参加することができました。26聖人は知っていましたが、16聖人はあまり知りませんでした。中町教会には小学生のときに聖歌の集まりで来て以来です。聖歌隊の歌声もきれいでした。帰ったら家族に今日のことを伝えます」と話していた。

聖トマス西と十五殉教者は、1633年から37年までの間に西坂で殉教した。日本人9、スペイン人4、イタリア・フランス・フィリピン人各1人。1981年2月17日に聖ヨハネ・パウロ2世教皇によりマニラで列福、87年10月18日にバチカンで列聖された。記念日は9月28日。中町教会は「聖トマス西と十五殉教者」にささげられている。

「大阪高松大司教区」設立
日本の教会 新たに15教区に

教皇フランシスコは8月15日（火）、「大阪教区と高松教区を統合し、新たに大阪・高松大司教区を設立、その初代大司教として前田万葉枢機卿を任命する」と発表された。

大阪高松大司教区設立式ミサは、10月9日（月）13時から大阪聖マリア大聖堂（玉造教会）で行われた。前田大司教の主司式、司教・司祭団の共同司式のもと、修道者、信徒らが参列し祈りをささげた。ミサの冒頭、駐日教皇庁のリヴェ・ファブリス臨時代理大使からあいさつがあり、ローマから届いた教皇による「設立の大勅書」が掲げられた。

派遣の祝福の後は設立記念式へと続き、日本司教協議会を代表して大塚喜直司教（京都教区）が祝辞を、2022年9月26日まで高松教区を導いた諏訪榮治郎名誉司教と、前田大司教（大阪高松教区）が感謝と祝福の言葉を述べ、酒井俊弘補佐司教（同）が閉会のあいさつをした。これらの様子はライブ配信された。

大阪高松大司教区の設立により、日本の教会は15教区に。新大司教区の保護の聖人は「ロザリオの聖母」。司教座聖堂は大阪聖マリア大聖堂、事務局の所在地は玉造。ただ、新宗教法人としての開始日は未定で、それまでは両教区（宗教法人）がこれまで通り業務を継続する。

※新大司教区設立の発表当初は「着座式」を行う旨が伝えられていたが、福音宣教省から着座式をする必要はないとの連絡を受け、設立式のみが行われることとなった（10月3日付お知らせ）。

写真は2枚とも大阪高松大司教区 YouTube チャンネルより

アンドレア・レンボ師（ミラノ外国宣教会）
東京大司教区補佐司教に任命

教皇フランシスコは、ローマ時間9月16日正午（日本時間同日19時）、ミラノ外国宣教会のアンドレア・レンボ（Andrea Lembo）師を、東京大司教区の補佐司教に任命すると発表した。

司教叙階式は12月16日（土）に行われる予定。

東京大司教区に補佐司教が誕生するのは、幸田和生司教（2005年2月就任）が、18年6月に引退して以来5年ぶりとなる。

略歴

1974年5月23日イタリア共和国ロンバルディア州ベルガモ県トレヴィーリオに生まれる。74年11月24日トレヴィーリオ聖ペトロ使徒教会で受洗。2003年6月7日助祭叙階。04年6月12日司祭叙階。09年4月来日、東京で日本語研修（11年3月まで）。11年4月～12年3月板橋教会助任。12年4月～17年3月習志野教会助任。14年4月～21年2月一般社団法人船橋学習センター「ガリラヤ」副理事長。17年4月～23年3月府中教会主任。17年5月からカトリック・ミラノ外国宣教会管区長。21年2月一般社団法人船橋学習センター「ガリラヤ」理事長。21年6月から公益財団法人真生会館理事長。

シノドス第16回通常総会
ともに歩む教会のため
第1会期 10月4日から29日まで

「ともに歩む教会のため―交わり、参加、そして宣教―」をテーマとする世界代表司教会議（シノドス）第16回通常総会の第1会期が、10月4日（水）バチカンで始まった。10月29日（日）まで開催。

4日午前、教皇フランシスコはバチカンの聖ペトロ広場に集った約2万5千人の信者らを前に、120人の枢機卿、370人のシノドス参加司教らと開会ミサを行われ、同シノドス総会をスタートさせた。

教皇は開会ミサの説教の中で、時代の荒波の中を行く教会の態度を、聖ヨハネ23世が第2バチカン公会議の開会の席で述べた「第一に必要なのは、教会が古来の人々から受け取った真理の遺産から決して目をそらさず、同時に、新しい状況、新しい生き方をもたらし、新しい使徒職の道を開いた、今日をも見つめることである」という言葉をもって示された。また、教皇は、ベネディクト16世が2012年のシノドス中の黙想で述べた、「わたしたちにとっての問題とは、『神はお話しになられた。

大いなる沈黙を破り、ご自身を現された。では、わたしたちは、それが人々の救いとなるように、いかにしてこの事実を今日の世界に伝えるか』ということである」という言葉を引用。この問いを本質的なものとされた教皇は、「人類をいつくしみをもって見つめる教会となるために、わたしたちの眼差しを再び神に注ぐこと、これがシノドスの優先的課題である」と説かれた。（バチカン・ニュース）

4日午後はパウロ6世ホールで第1回全体会議が行われ、教皇フランシスコの導入の言葉、シノドス事務局長マリオ・グレック枢機卿のあいさつ、シノドス総会議長ジャン＝クロード・オロリッシュ枢機卿の基調講話などが行われた。

5日（木）午前、最初の分科会が35のグループに分かれて行われた。分科会は討議要綱に沿って考察が進められ、午後も続いた。6日（金）以降も全体会議や分科会が開かれ、12日（木）午前には第6回分科会があり、この朝、会議開始前の祈りで、参加者は中東と世界の平和のための祈りをささげた。

（10月13日現在）

ほしかげ

コロナ禍を境に消えた子供達の姿を教会に見つける工夫が求められています。まず共に手を合わせて祈る。教会学校の時間を利用して、ロザリオを唱えてみました。思いの他反応が良く、子供達は要領を得てしまうと、唱える声にも感情を込める。特に低学年の子供が声にした祈りは、癒やしを与えてくれました▲唱えている最中にやって来た巡礼者は、そのまま留まり、共に唱えながら様子をうかがっていました。子供達が唱えるロザリオと姿がもの珍しかったらしく、「うらやましい」との感想を口にして帰りました。今でも子供達が声にして唱えているロザリオ、その喜びと感動を、訪ねた先の教会で体験できた。巡礼に出かけた人へのご褒美だったのかもしれません▲幼い頃はどこの教会でも見かけた光景でした。友達と大きな声でロザリオを唱えて、聖歌を歌い、帰り際にアニマル・ビスケットや飴をもらって帰る。口に入れた飴の味が懐かしく、聖歌をハミングして帰ると褒められたあの頃とは違っても、子供が共に祈る姿は、誰かを癒やす▲祈りは無力ではない。幼い子供の祈りに癒やされて、見える時代の変化に気づく信仰。失いつつある原風景を求めて祈らなければ、いつまでも気づかない時代の変化。気づかせてくれるのも祈る姿と声。取り戻すためにできることは、祈ること。祈らなければ気づけない時代の変化。祈りの褒美はどんな味？　（山）

21世紀を迎えたとき、当時の教区司教、島本要大司教の導きのもと、時代に対応するべく改革された長崎教区の新体制が始動した。同時に「宣教する教会をめざして」の祈りがつくられ、折に触れこの祈りが唱えられてきた。そして、教区のすべての人が一丸となって「宣教する教会をめざして」取り組むべく11の委員会が発足、活動を開始した。

あれから20年以上が経ち、社会情勢も教会を取り巻く環境も変化し続ける中、全世界で進められているシノドス第16回通常総会（テーマ「ともに歩む教会のため－交わり、参加、そして宣教－」）の歩みと同様、長崎教区でも「ともに歩む」ことがさらに呼びかけられている。

長崎教区の現勢統計を見ると、信者数が減少傾向にあることは明らかだ。また、教区が抱える課題もいっそう切実なものとなっているが、教区が教会の使命（福音宣教）を生きる上でそれらの課題にどのように取り組もうとしているかをあらためて確認し共有していくことができればと思う。教区本部事務局長の葛嶋秀信師に、長崎教区の課題と組織立ての働きの方向性、「ともに歩む」ために必要と思われる視点について執筆いただいた。

教区広報委員会

長崎教区の課題「ひとつになる」

教区本部事務局長　葛嶋 秀信

1.「ともに」

「わたしも三位一体の神を証し、自らを与えるパンになりたくて、紋章の言葉をラテン語で『キリストのように キリストとともに 与えること』にしました」。２０２２年2月の着座式の記念カードの紋章の説明だ。「ともに」は、中村倫明大司教のモットーである。

信徒発見１５０周年に当たる２０１５年を祝う形で「教区代表者会議（シノドス）」は開催された。数年の準備の間、教区全体の「結びつき」を確認し発展させた。「会議も大切ですが、話し合うためには福音に基づいたものの見方や考え方を持っていなければなりません」「教区の活性化はわたしたちの心と生き方の絶えざる刷新にかかっています」（髙見三明前大司教年頭教書から『よきおとずれ』２０１０年1月号）。「参加し、交わり、宣教する教会づくり」を視野に置きながら、「長崎教区を将来に向けて具体的にどうするか」という大きな問題について、聖霊の導きのもと「教区全体で考え、知恵を出し合って具体的な方向づけ」を行うためであった。

2.「ともに」の精神を生きる

８年前の教区代表者会議では、９つの提言とともに「基本方針」として「小共同体づくり」、福音化推進部主体の「ミゼリコルディア長崎」推進を、また優先課題として信仰養成部主体の「カテキスタ養成」を選んだ。

時は進み、昨年末に教区シノドス担当司祭が任命され、今年に入り「一緒に長崎の教会を盛り上げる」との意気込みの中で確認されたことの一つは、この働きや動きが「会議のため、推進チームや組織」のためではなく「福音」のため「キリストを宣べ伝える」ためにあるということだ。

各地区からの意見は多様である。「優先課題について司祭は関心が薄く、協力関係もできていない。信仰養成や召命など、根本的で大切な課題に絞って取り組んでほしい。教区シノドス担当司祭には、委員長に提案していくような役割を担ってほしい。教区シノドスで達成できたことは何かがよく分からない。振り返ることが必要。組織や担当者相互の関係性や、責任の所在を一度整理し、明確にしてほしい。委員会が多過ぎる。組織をスマート化してほしい。司祭一人への負担が大きく、司牧が手薄になる。委員会を信徒に開くことも含めて再考してほしい」など多数である。

教区の新しい理念と優先課題に向かい合い、意見を聞きながらその目標を共有したい。

3.「一緒に道を行く」ために

「新約聖書には、霊における対話様式の模範が数多くあります。典型的なものは、エマオへの道で復活した主と2人の弟子が出会う物語です（ルカ24・13－35参照）。彼らの体験が示すように、霊における対話は交わりを築き、宣教のダイナミズムをもたらすのです。実際、2人は、主があげられたという復活の告知を分かち合うために、自分たちが去った共同体に戻ってきたのです。その具体的な現実として、霊における対話は、共同識別を視野に入れた、共有された祈りだといえるものです」（世界代表司教会議第16回通常総会・第1会期の「討議要綱」〔日本語版〕36～37参照）。

聖書による神との対話のために、聖書に親しむ活動は「小共同体」活動、「聖書１００週間」「聖書講座」または「みことばの分かち合い」など、「聖書愛読運動」の一環として今まで同様、各地で行われるものと期待される。

「ミゼリコルディア長崎」は、「部」が廃止・再編成されるとしても、これまでと近い形で発展するであろう。優先課題として信仰養成部主体の「カテキスタ養成」は評価されてきたが、通常の活動として、今後その主導を任される部署の中で継続される。

「子どもと女性の人権相談室」については、２０１７年の4月から開設されたが、２０２０年12月に一旦閉鎖。本年新しい担当司祭が任命され今年中の開設が待たれる。

4.一時的な「シノドス」と継続的な「シノダリティ」

前駐日教皇大使レオ・ボッカルディ大司教の言葉から学びたい。

「シノドス」と「シノダリティ」は同義ではありません。「シノドス」は具体的な出来事であり、「シノダリティ」は教会生活のいくつかの特性を示す概念です。「シノダリティ」とは、教会が生きて働く、いやむしろ、教会が生きて働くべき、特定の形態です。

「シノドス」には始まりと終わりがあり、「シノダリティ」は今日の教会の宣教スタイルです。多くの「シノドス」は、おそらく「シノダリティ」なしで開催されました。

したがって、もしわたしたちが「シノダリティ」とはどういうことかをよく理解したければ、『教会憲章』第2章に戻り、司教、司祭、修道者、男女信徒を含む、神の民というカテゴリーに立ち戻らなければなりません。（中略）「聖なる父よ、……わたしたちの罪のゆるしとなることのいけにえが、全世界の平和と救いのためになりますように。地上を旅するあなたの教会、教皇〇〇〇〇、わたしたちの司教〇〇〇〇、司教団とすべての奉仕者を導き、あなたの民となったすべての人の信仰と愛を強めてください」。しかし、贖われた人々の中には、教皇、司教、その他の人々も含まれているのではないでしょうか。聖アウグスティヌスが言ったように、わたしは個人として、あなたのための一人の司教であり、あなたとともにいる一人のキリスト者だと感じています。（中略）

つまり、シノドスや司教協議会といった司教たちの組織に参加することによって、神の民が教会位階の中に組み込まれなければならないのではなく、教会位階こそが神の民の中に身を置き、すべての信者の声に耳を傾けながら、信者の一人として生きていくよう招かれているのです。

（２０２３年2月13日司教団へのメッセージ）

5.絶え間ない「刷新」と「回心」

世界代表司教会議・第1会期で、同事務局長マリオ・グレック枢機卿は「教会とシノドスとは同義であり、シノドス的教会とは、『人々に傾聴する教会』であると同時に、今日神がお望みになることを理解するために、伝統の光のもとに『みことばに耳を傾ける教会』である」と語った。まず「聴くこと」から、そうすれば「ともに」生かされている喜びを「伝える」方へ向かう。いつも教会には回心が必要で、共通の「家」にまず帰り着き、そして、再出発する。

「放蕩息子」（ルカ15・11－32）のたとえでは、2人とも真の息子ではないと示される。弟は「豚の食べるいなご豆を食べてでも腹を満たしたかったが、食べ物をくれる人はだれもいなかった」（15・16）。兄の方は、何年も父親に仕えたこと、報酬は何も得なかったと幻滅し、放蕩の限りを尽くしみじめなありさまで帰ってきた息子のために開いた祝宴を非難している（15・29－30）。

2人の兄弟は、神について歪んだ考えをしている。弟は「雇い人の一人にしてください」（15・19）と願い、兄は父親の奴隷の一人のようだと宣言して（15・29）真の父親と実感できずにいる。弟は放蕩に陥り、兄は強情に陥っている。初めから間違いの中にいるので、父の家を牢屋と思っている。弟は父から逃れるために好き勝手に遊ぶという駆け引きを使い、兄は義務に徹するという駆け引きに出た。どちらも息子としての道を踏み外した。正しい人の回心は、不正な人の回心よりも難しい。回心は罪人が悔い改めるということだけでなく、神についてのイメージを変えること、そこから始まることだ。

石碑
文字彫刻
墓地工事
リフォーム
墓地分譲
ながさきせきちょう
長崎石彫
ヨゼフ　岩永　貴弘
☎(095)862-2469
長崎市花園町 23-17 立岩公園前

主の平安
カトリック式葬祭・飾付一式
（有）栄光式典社
代表取締役　ヨハネ　西村勇二
長崎市辻町7-18　TEL(095)844-4011
24時間営業　FAX(095)843-9896

CALIS Catholic Life Service
カリス通信　11月号
学校に関わるリスクのご紹介
昨今、学校に関わるリスクは複雑化しています。施設に起因するリスクに加え、いじめ、試験の採点ミス、職員のハラスメントなどリスクは多岐にわたります。今回は、学校に関わるリスクと対応する保険をご紹介します。
＜学校教育活動賠償責任保険＞
学校教育活動の遂行またはハラスメント等の行為に起因して、学校が法律上の損害賠償責任を負担することによって被る損害に対して保険金をお支払いします。また、訴訟にかかる弁護士費用も補償します。
＜学校教育活動に関する事故事例＞
・学校が生徒間のいじめを把握できず、いじめられた生徒から精神的苦痛を受けたとして損害賠償請求をされた。
・卒業試験の採点ミスで留年となったことにより、保護者から損害賠償請求をされた。
・部活動の顧問からハラスメントにより精神的苦痛を受けたとして、学生とその保護者から損害賠償請求をされた。
カリスでは、学校に関わるリスクと保険についてご案内をしております。どうぞお気軽にカリスまでご相談ください。
私たちが、お守りします。
三條貴英　毛利玲子　山本泰彦
服部秀昭　川口 薫神父（顧問）

※本ご案内は「学校教育活動賠償責任保険」についてご紹介したものです。ご契約にあたっては「重要事項説明書」をご一読ください。
カトリック共済システム
有限会社カリス
〒135-8585 東京都江東区潮見 2-10-10 日本カトリック会館
連絡先 0120-77-0033
カトリック共済システム　検索
23TC-003878（2023年9月作成）
引受保険会社：東京海上日動火災保険株式会社
リスク・補償に関してお気軽にお問い合わせください

生きざまに倣い、宣教を

福者カミロ・コンスタンツォ殉教祭

教区主催の福者カミロ・コンスタンツォ神父殉教祭が9月17日（日）、田平教会を会場に午後2時から開催された。コロナ禍や天候の都合により3年間中止を余儀なくされたが、昨年殉教400年の節目を迎え、今年は焼罪史跡公園での実施を目指し準備に取り組んできた。しかし、連日の天候不良のため会場を田平教会に移し行うこととなった。

当日は小雨の中だったが、平戸地区からの信徒、修道者ら約120人と同地区司祭団が集い、中村倫明大司教司式のもと記念ミサがささげられた。大司教は説教の中で、聖トマス西、福者セバスチャン木村など平戸出身の殉教者たちを紹介。特に、火あぶりの刑で殉教した福者カミロ神父の生きざまに倣い、イエスとの出会いを人々にもたらすために日々努めよう、と励ましの言葉を参加者に贈った。また、召命のために祈り、志願者、神学生の召し出しに協力してほしいと呼びかけた。

殉教祭後、実行委員会のメンバー約40人は平戸口教会の信徒会館に移動し、大司教を囲んで反省会と懇親会を行い、「来年こそは殉教公園での記念祭を」と願いを込めて語り合った。

鈴田牢跡で殉教記念ミサ

植松と水主町教会の信徒ら祈る

9月23日（土）大村市鈴田牢跡で殉教記念ミサが行われた。植松、水主町の両小教区が呼びかけるこのミサは、コロナ禍以降、中止や参列者を限定するなど規模を縮小してきたが、今年は植松教会と水主町教会から信徒が集い、殉教者たちに思いをはせ、祈りをささげた。

鈴田牢には1617年から5年間、横になることもままならない狭い空間に外国人宣教師や信徒30人余が閉じ込められた。現在は、碑文によると広さが「縦3.6メートル、横5.6メートル」といわれる牢の跡に祭壇が設置されている。

ミサを司式した水主町教会の山田良秋師は説教の中で、牢の中でも神父は祭服を着てミサを挙げていたこと、そこには危険を顧みずに必要なものを牢に届け、外から支えた信徒たちの存在があったことを語った。

参加者の一人は、「信徒が、囚われの司祭、修道者、信徒を命がけで支え、励まし、身をひそめました。信仰を守り抜いた信徒の存在が今日の私たちの信仰につながっています。信仰に命をささげた殉教者たちだけでなく彼らにも思いを巡らせて祈ることが、殉教者のための祈りではないか、という気づきをいただくミサとなりました」と話した。

島原の殉教者を思い

有馬川でロザリオ、島原教会でミサ

毎年、島原小教区は有馬川殉教記念日に有馬川殉教地で祈りをささげ、殉教者たちに尊敬と取り次ぎを願う大切な日としている。今年も10月7日（土）殉教の日にロザリオを唱え、『有馬の殉教者』を朗読。「キリシタンの町を流れて有明海に注ぐ有馬川には、8本の火柱と、見守る群衆の地鳴りのような祈りが続いた。中州には、有馬の教会を代表して3家族8人が縛られていた。その中の1人、レオ武富が中州から野太い声で叫んだ。『これで有馬のキリシタンの信仰がお分かりでしょう。有馬の信者たちはみな同じ心で一つになっております。別れるにあたりこの信仰を守るように頼みます』。参加した信徒の一人は「今日が殉教の日なんですね…」と沈黙していた。

翌8日（日）は9時から島原教会で、島原半島殉教記念ミサが主任司祭下口 勲師の司式で行われた。今までは原城跡で実施していたが世界遺産となり殉教祭ができなくなったため、島原教会で行った。参列者は、納骨関係の参加もあり、35人という、島原教会にとっては多人数となった。

参加者は「信徒たちの殉教者に対する思いは信仰の支えとなり、こころの灯として強く生き続けています」と語っていた。

ともに…つんのうで！

第14回カ障連長崎全国大会

写真上から：会場となった長崎純心大学、全国からの参加者を迎える、開会あいさつをする水野実行委員長、基調講演をする東氏、分科会、全体会、中村大司教司式による感謝ミサ

日本カトリック障害者連絡協議会（カ障連）とカ障連長崎全国大会実行委員会が主催する「第14回カ障連長崎全国大会」が、10月14日（土）～15日（日）長崎純心大学を会場に開催された。大会テーマは『ともに…つんのうで！』（一緒に行こう）。長崎大司教区、中央協議会カリタスジャパン協力。

この大会は3年ごとに全国各地持ち回りで開かれ、九州での開催は初めて。2018年横浜での前回大会に続き2021年の開催が予定されていたが、新型コロナの影響で繰り返し延期を余儀なくされ、ようやく今大会を迎えることとなった。全国からの参加者は約170人、大会前日の準備を含む3日間のボランティアは延べ約500人だった。人々が集い、出会いと気づきの時間を共有したこの大会のプログラムの一部は、ライブ配信でも伝えられた。

1日目は開会式の後、元熊本学園大学教授で弁護士の東 俊裕氏による「インクルーシブ防災」をテーマにした基調講演、12の分科会、懇親会。2日目は全体会と感謝ミサが行われた。ミサは中村倫明大司教の主司式、カ障連顧問司教の前田万葉枢機卿と県内外の司祭19人の共同司式のもと、大会参加者の他に集まった多くの人々とともに祈った。閉会式では、次回開催地が名古屋と宣言された。

長崎全国大会実行委員長を務めた水野勝美（かつみ）さん（八幡町教会所属）は大会後、緊張がほぐれた様子で取材に応じ、手話通訳を通して次のように感想を語った。「2日間の大会は、全体を通してとてもよい雰囲気でした。特に分科会では、いろんな方の考えや意見を分かち合うことができたと思います。これからの教会に望むことは、例えば手話通訳者を育てるなどして、誰もがミサに一緒に参加できる環境であってほしい。みんなで一緒に歩んでいく教会であることを望んでいます」

2023年度 第1回 司祭評議会

9月19日（火）長崎大司教館で2023年度第1回司祭評議会が開かれた。ここで審議され、大司教に「答申」された主な内容は次の通り。

▼教区シノドスの優先課題―（諸委員会の委員長とシノドス担当者、司教総代理、本部事務局長で構成する）シノドスコアチームの会議から、新たな優先課題として①召命のための方策を特に検討する②教会に集まっていのちに関わり福音の喜びを伝える、の2点が挙げられ承認された（下記参照。10月1日の教区評議会役員会で教区の理念と優先課題が承認された）。

▼教区組織における「部」の在り方―教区諸活動部門の第3期が始まった2008年度に3つの部（信仰養成部、福音化推進部、教会奉仕者等養成部）が発足し、その後、教会奉仕者等養成部の廃部、一部の委員会の独立や統合（いずれも18年3月教区顧問会で決議）を経て、現在は2つの部と11の委員会となっていた。この中で、信仰養成部と福音化推進部について審議し、その「部」としての構成を廃止し、今後は教区シノドス担当司祭を諸活動の軸にし調整していく。

▼「小共同体づくり」の活動とそれを推進する「小共同体推進室」について―今後どのように方向づけるか、各地区からの意見や要望を踏まえ、大司教が決定する。

▼『カトリック長崎大司教区 小教区資金の教区預託と小教区への貸付に関する規定』の『小教区互助基金特別会計規程』への改称が承認され、その改定につき次の3点が承認された。

(1) 貸し付けに対してこれまでの通り無利子とするが、協力金は廃止する。

(2) 貸付金上限は現状のままとする。

(3) 互助の精神から教区会計からも、資金の不足時は財政調整基金から貸し付けを行う。

2023年度 第3回教区評議会役員会（10月1日開催）

教区の理念と優先課題が提案され承認された。

理念

「ともに参加し ともに交わり ともに宣教する長崎教区」

優先課題

1「ともに集い 喜びある教会に」

喜んで教会に集い、典礼や行事への参加や交わりを楽しんで、ともに家族や周りの人々に福音の喜びを伝えていく長崎教区にしていく。

2「わたしたちの教会から わたしの家庭から 司祭や修道者を」

召命のために祈り、声をかけて、それぞれの召命に参加し、召命を受けた者は、人々との交わりを大切にし、福音宣教の使命を怠らないこと。

2023年度 第2回 教区顧問会

9月19日（火）長崎大司教館で、司祭評議会に続き今年度2回目の教区顧問会が開催された。主な審議は次の通り。

▼旧伝道師学校の活用について―大浦天主堂境内敷地に残る「旧伝道師学校」の活用に関して、デザインによる開発を手がける会社から次の通り事業計画の説明があった。「大浦天主堂境内南側の、明治期の建造当初の輪郭を修理して、巡礼者や信者、一般の人々が利用可能な宿坊として活用する。また、昭和期の増築部を改築してカフェなどの収益事業を行い維持管理する」というもの。他の対処案として全建物除却、または本体建物のみ保存（増築部除却）、あるいはそのままの状態で保存することが挙げられたが、この会社が今回示した本体建物保存と増築部活用整備の構想は否決された。

▼川添 猛師（2017年逝去、長崎教区司祭）が奨学金制度設立のために遺し、カトリック長崎大司教区が管理しているお金を、純心大学が設立予定の奨学金制度「パーテル基金」に寄付する。

▼「教会保全基金特別会計規程」に基づき、教会保全基金からの助成を島原小教区雲仙教会の雨漏り対策工事および天井の一部張り替え工事に対して行う。

▼大浦天主堂キリシタン博物館の委託管理者として、2018年から6年契約でNPO法人世界遺産長崎チャーチトラストと基本協定を結んでいるが、来年3月をもって契約が終了する。同博物館の委託管理者募集要領を承認し、来年度から4年契約で委託管理者を募集する。

マリア 山口トシ子修道女

（お告げのマリア修道会）

9月6日逝去。87歳。1935年平戸市生まれ。50年当時の紐差修道院に入会。59年初誓願、71年終生誓願宣立。

カテキスタや保育士として働いていたが、44歳で初めての転任で黒島へ行った後、手先の器用さを生かして、本部では姉妹たちのコートを作るなどの被服係を務めた。その後は料理の腕を生かして10年ほど司祭館の奉仕をし、60歳を過ぎてから紐差修道院の調理を担当した。若い頃から病気と闘い、手術を繰り返しながら真心こめて食事を準備した。6月に再入院し、姉妹たちの見送りの中、御父のみもとに帰った。

葬儀ミサ・告別式は9月8日、紐差教会で行われた。

愛にあふれるローマ教皇の
知られざる真の姿に迫るドキュメンタリー
映画『旅するローマ教皇』
10月6日から全国順次ロードショー
長崎はTOHOシネマズで近日上映予定
2022年/イタリア/83分　配給：ビターズ・エンド
カトリック中央協議会 広報推薦

〝だれでも自由に参加できます〟

中町教会での朝祷会

毎月第3火曜日に実施

朝祷会とはキリスト教会諸教派の有志で朝に集まり、祈りと聖書朗読と分かち合い、また持ち寄りの朝食をとりながら交流と親睦を図る会です。

これまでコロナ禍で3年間途絶えておりましたが、2023年7月18日から再開し（9月から呼びかけ）ました。原則として月の第3火曜日朝7時半から、中町教会信徒会館をお借りして約1時間行われます。現在、4回目まで行われ、参加者はおよそ20人ほどです。

韓国や中国出身の牧師の先生方（日本語は堪能です）、熊本や長崎で長らく伝道活動をされておられる各宗派の信徒の皆さんなど、さまざまな立場の方々が集まり、それぞれの現状や社会的活動の情報交換など、貴重な勉強の時間となっております。この会にはだれでも自由に参加でき、会場提供を今年度はカトリック、来年度はプロテスタント教会と、交互に担当していきます。

教区エキュメニズム・諸宗教委員会

2020年
〝被爆75年から
5年間のチャレンジ〟
https://nuclear-free.net/
核なき世界基金

コロナ禍を経て 久しぶりの親睦

司祭団ソフトボール大会

9月26日（火）、司祭団ソフトボール大会が上五島の新魚目グランドで開催されました。

コロナ禍を経ての久しぶりの大会で、長崎地区、佐世保・平戸地区、上・下五島地区から総勢41人の司祭たちが集い、その雄姿ぶりを披露しました。地元の信者たちも各教会から駆け付け、司祭団を上回る数となって、ごひいき筋を応援しながら、熱戦の行方を温かく見守りました。

曇り空でも残暑を感じる絶好の運動日和の中、3試合が行われ、結果は1位長崎チーム、2位五島チーム、3位佐世保・平戸チームでした。懇親会では互いの健闘をたたえ、親睦を深め、新たな宣教司牧に向けての英気を養いました。

（報告・上五島地区）

英語コミュニティーの一泊錬成会

三浦町教会英語コミュニティー31人は、9月23日（土）～24日（日）に長崎県民の森で一泊練成会を行った。

アルベルト・マーフィル神父（フランシスコ会）による「聖体の重要性」の講話、クイズやグループでの分かち合いを通して、新しい〝兄弟姉妹〟と出会い、お互いの距離を縮めることができた。夕食はバーベキュー、手作りピザを囲み、ギターに合わせて大合唱、子どもも大人も大いに笑い、楽しんだ。そんな中、中村倫明大司教が時間を作って訪れてくださったことは、うれしいサプライズであった。中村大司教の（かつて三浦町教会に赴任した当時と）「いっちょん変わらん」姿に皆温かい気持ちになった。食後はアルベルト神父とネルソン・アブライ・バルバロナ神父（神言修道会）との共同司式によりミサをささげた。翌日は美しい朝焼けの中、敷地内のつり橋までロザリオを祈りながらウオーキングを行った。

英語コミュニティーは米軍とその家族、在住外国人、技能実習生などさまざまな背景、国籍のメンバーで構成されている。転勤者や帰国者が多く、共に過ごす期間は短いが、同じ「神様の子」として笑顔と心を通わせる深い間柄を作っていくことを願っている。

（教区人権委員会）

フォコラーレ主催

マリアポリ 4年ぶり開催

9月16日（土）～18日（月）長崎市飯香浦町にある日吉自然の家で「ハートとHeartで逢いたい今！ 交わりから生まれる希望と光」と題し、4年ぶりにマリアポリを開催しました。県内外のみならず、韓国からの参加者や、メキシコ、ブラジル、カメルーン出身者もいて、世代、教会や宗教、考えの違いを超えて、総勢100人余が集い、黙想とゴミサ、経験の発表、ワークショップや分かち合い、そして、欠かしてはいけない「マリアポリ祭」などを通して交わりの喜びの場を過ごしました。

初の試み、「特別テーマ」として環境についてのシンポジウムがあり、身近な問題を考える機会となりました。

シンポジウム登壇者（右から）髙見三明名誉大司教、長崎バプテスト教会の春海賢一氏、名古屋大で地球環境学の分野を研究する大学院生ケネット・エココベ氏

また、若者たちがワールドユースデー（WYD、世界青年の日）についてのプログラムを企画し、実際に参加した若者の経験発表もあり、喜びと希望にあふれる姿が輝きました。

参加者からは「大安息日のよう」「多国籍な交わりができた」「自分の経験が相手にプレゼントになった」「隣人愛を実践したい」などの声が聞かれ、今後の生きる指針となったようです。

フォコラーレ

シドッティ神父の講演会

県立図書館郷土資料センターで開催

イタリア人宣教師、ジョバンニ・バッティスタ・シドッティ神父（1668～1714）をご存知ですか。1708年屋久島に上陸、長崎奉行所へ連行され、さらに江戸の切支丹屋敷に連行、新井白石の取り調べを受け、白石はその結果を「西洋紀聞」として記録しました。現代の日本の科学技術の基となったのはシドッティ神父の来日がきっかけといわれています。

シドッティ神父は切支丹屋敷に軟禁され、神父の世話をしていた老夫婦に禁教であるカトリックの教えを伝え、2人は洗礼を受けます。そのことが役所側に知られ3人は地下牢に入れられて亡くなりました。2014年、切支丹屋敷の再開発工事に伴い3人の遺骨が発見され、DNA鑑定の結果シドッティ神父と老夫婦の遺骨であると判定されました。

9月23日（土）長崎県立図書館郷土資料センターでシドッティ神父に関する講演会（NPO法人世界遺産長崎チャーチトラスト主催）が開催されました。中村倫明大司教のあいさつの後、作家でNPO法人やくしま未来工房理事長の古居智子さん、日本二十六聖人記念館副館長デ・ルカ・レンゾ師がそれぞれ講話をし、参加者は神父の来日の目的と日本に与えた影響などについての理解を深めました。

（鹿児島在住・長野宏樹）

新刊良書

★ライフスタイルの転換に向けて、ともなる歩みを『回勅ラウダート・シ』と環境保護

著＝吉川まみ

地球の環境問題が重要・大規模・緊急であるとの認識に役立つよう、教皇フランシスコがローマ・カトリック教会の全員に宛てた公文書、『回勅ラウダート・シ』（2015年）。本書は、この回勅に「依拠しつつ超越的な次元をふまえた環境教育的な視点から」書かれ、日本や世界の時事を知る人には、説明内容を比較的理解しやすい箇所も多い。環境問題では統治側や産業側だけでなく、各自のライフスタイルの在り方も問われるので、各章末の〈コラム〉〈エコ実践〉でも、種々の情報、エコ実践例とそのコンセプトなどを紹介。

女子パウロ会、税別1500円。

お知らせ

〈教区評議会役員〉

今年5月3日に開催された2023年度教区評議会総会の後に、教区評議会役員として選出された、または新たに任命された方々は10月1日現在で次の通り（敬称略）。

委員　岡　秋美（教区シノドス担当）、谷脇誠一郎（教区シノドス副担当）、平松博之（平戸地区）

▼教区主催追悼ミサ　11月5日（日）13時30分、福江教会。

▼自死された方々のための追悼ミサ　11月25日(土)14時、西坂・聖フィリッポ教会。ゆりの会主催。教区人権委員会協力。問合先・鳥巣シオリ TEL 090-9488-7931

ぶどう園

▼司教座聖堂献堂記念ミサ　11月1日(水)18時30分、浦上教会。

感謝

―香典返し―

長崎カトリック神学院

●山口光徳様（出津）

故ペトロ山口繁光様

右の方からご寄付・ご芳志を賜りました。お礼とご報告を申し上げます。

2024年4月から相続登記の義務化スタート
これまでの相続も対象
相続した不要な土地の国庫への帰属手続、遺言書作成など
まずは、お電話を!!
司法書士 行政書士 山下 緑 事務所
ミカエル 山下 緑
〒854-0014 諫早市東小路町10-21　電話 0957-22-6177

ペトロ岐部と187殉教者列福式記念墓地
カトリック長崎中央墓園
【墓地管理委員会 カトリック中町教会内】
TEL 095-823-2484　FAX 095-823-2486
詳細は【カトリック中町教会】で検索
（有）鉱栄商事（石材・墓碑・管理・墓じまい）
TEL 095-834-4910　FAX 095-834-4912
〒850-0066　長崎市大浜 650-111

砕石・栗石・港湾用捨石一式生産販売
たつみ産業株式会社
西田商事株式会社
代表取締役 ミカエル 西田 剛
本社　〒857-1166 佐世保市木風町1468番地
TEL（0956）31－8268

注文家具の店　家庭祭壇・聖具・祭壇・長椅子・朗読台
かおり
佳織木工所
《家庭祭壇ギャラリーOPEN　パンフレットもございます。》
〒857-0032 佐世保市宮田町7-7
☎0956（23）1867
代表 ヨハネ 濱口 知博

長崎カトリックセンター前　長崎市上野町1-5 TEL 095-845-6175
医療法人 平田クリニック
院長 ヨゼフ 平田哲也
内科・循環器科・通所リハビリテーション